第3次香美市振計画策定方針



令和7年9月 企画財政課

策定の趣旨・計画の構成・計画期間

>これまでの経緯

- 本市では、2007年に第1次香美市振興計画を制定し、2017年には「輝き・やすらぎ・賑わいをみんなで築くまちづくり」を基本構想とした、2017年度から2026年度までを計画期間とする「第2次香美市振興計画」を策定しました。
- 第2次香美市振興計画では、「進化する自然共生文化都市・香美市」を将来像に6つの基本 指針を定め、まちづくりを進めています。

▷ 社会背景

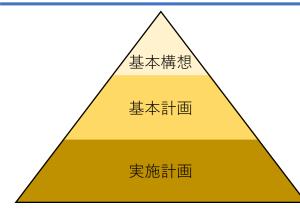
■ この間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による新しい生活様式の浸透や人口減少・少子高齢化の加速、人口構造や労働環境等の変化に伴う人手不足、自然災害の激甚化・頻発化、国際情勢等の影響による原油価格や物価の高騰など、本市を取り巻く現況は予想を超えるスピードで変容している。

さらに、AIなどデジタル技術の急速な発展、2050年カーボンニュートラル、多様性のある社会やこどもまんなか社会の実現に向けた取組など、社会変革が進んでいます。

> 新たな振興計画

■ こうした状況の中、社会情勢の変化や多様化するニーズに的確に対応し、将来にわたり持続可能な市政運営を行うため、2038年度を目標年次とする新たなまちづくりの指針として、次期振興計画を策定する。

⊳構成



基本構想

振興計画における基本理念とその理念に基づいた目指 すべき将来像や政策の体系

基本計画

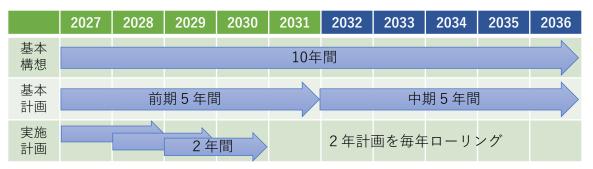
目指すべき将来像を実現するための政策と施策を示す もの

<u>実施計画</u>

基本計画で定めた施策を効果的に推進するため、市が 取り組むべき事業

▷計画期間

■ これまでの10年の計画を5年毎の前後期に分けて、実施計画(各事業)を毎年ローリング していく。



策定にあたっての考え方

○市民参画

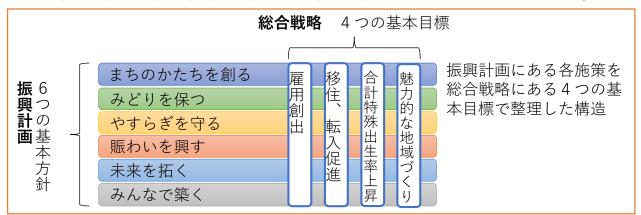
- 既存計画への意見照会、ターゲット別アンケート、地域団体等へのヒアリング、まちづくり 委員会、パブリックコメントといった多様な市民参画の仕組みを利用して、まちづくりの課題 の把握と共有、そして解決策を検討する。
- アンケートやパブリックコメントでは、オンラインでの手続きを可能にし、広報紙やホームページを通じて周知することで広く意見を収集していきます。

⊳実効性の確保

- 振興計画に基づく施策を着実に推進し、成果を上げるため、目標設定のあり方や評価方法の 見直しを検討します。また、総花的な計画ではなく、基本計画の計画期間である5年間に注力 すべき事業を中心に、メリハリのある計画作成を目指します。
- 策定後の進捗管理や計画の変更(PDCAマネジメントサイクル)を見据え、目標の達成に影響のある要因を分析し、適切な重要行政評価指標(KPI)又は重要目標達成指数(KGI)を設定します。

▽まち・ひと・しごと創生総合戦略との一体化

■ 振興計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は別途策定してきました。両計画の計画期間は一致していないことから、制度改正等の事情により整合性が取りづらい状況にあった。また、進捗管理等を個別に行うこととなるため、非効率的な運用となっていた。そこで、振興計画と総合戦略を一体化させ、基本計画においてKPIを設定します。



▷個別計画との整合性

■ 各分野における個別計画も総合戦略と同様に、振興計画にある各施策を各分野で整理した構造にあることから、個別計画を振興計画における実施計画として位置づけ、可能な範囲で計画期間を一致させ、振興計画において定めたKPI (又はKGI)を個別計画に目標として位置付けることで、市として一体感を持って施策を進めていくことを目指す。

また、各計画担当部署で実施されていた進捗管理やアンケートなどを一括で実施することで、 業務量の削減を目指す。

▽新たな視点

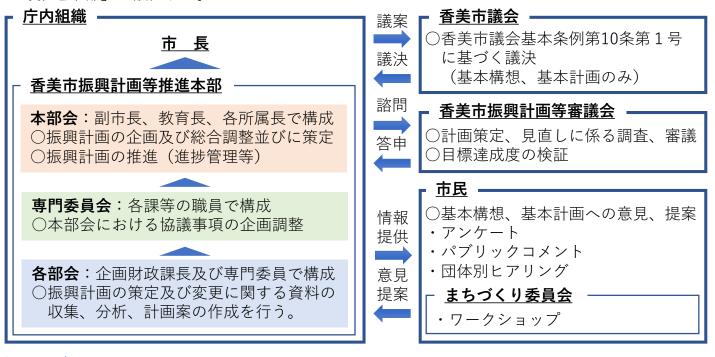
■ 持続可能な開発目標(SDGs)、地域幸福度(ウェルビーイング)指標、デジタルトランスフォーメーション(DX)といった視点を盛り込む。

策定体制とスケジュール

> 策定体制

■ 既存の「香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」は廃止し、「香美市振興計画審議会」と統合し、「香美市振興計画等審議会」を設置する。

また、「香美市まち・ひと・しごと創生・移住定住推進本部」は廃止し、「香美市振興計画等推進本部」を設置する。



▽スケジュール

